

排出企業の環境経営を支える



循環型社会を動かす リサイクラー

さだ やま きん ぞく
完 山 金 属
東 京 都 八 王 子 市



東京都八王子市にある本社。八王子市に産業廃棄物の中間処理施設と積替保管施設、町田市に営業所と金属スクラップを取扱う作業所がある

事業のポイント

- 自社の中間処理施設でクリーンかつオープンな廃棄物の処理を実施
- 電子マニフェストの導入による業務の効率化を提案
- 創業協定で町の清掃活動等を実施。地元との共生を目指し、地域コミュニケーションを促進

産業廃棄物の中間処理施設を開設。 “見てもらえる処理”を営業ツールに

スクラップ業の低迷期に、 廃棄物関連事業に着手

東京都多摩地区を中心に、金属スクラップの再生資源業や産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬業等を展開する完山金属は、10月2日、東京都の許可を得て、八王子市に産業廃棄物の中間処理施設「高尾リサイクル

10月に開設した産業廃棄物の中間処理施設「高尾リサイクルセンター」は、地域環境に配慮した屋内施設。まずは、自社で扱っている廃棄物の処理から着手している



センター」を開設し、中間処理業を開始した。

同社は、社長の完山一範氏の父親である先代が、1965年4月に金属スクラップ業を行う個人商店として創業した。完山氏は事務機器会社勤務を経て1993年に入社。スクラップ業が低迷期にあった1995年に法人化し、産業廃棄物や一般廃棄物の収集運搬業の許可を取り始めた。「スクラップだけでなく、ゴミや機械、建物関係など、廃棄されるものに係るすべての事業を手掛けていこうと思った。特に注力したのが産業廃棄物の収集運搬業。同時に家屋や機械設備などの解体業も始めた」と完山氏は振り返る。しかし、先代社長からは、スクラップ業とゴミ関係の仕事は違うと反対されたという。「いまは、スクラップ業者も許可を取得し、廃棄物の中間処理を行っているところが多いが、当時はゴミとスクラップは違う世界のものだった。企業でも廃棄物と再生資源の置き場は別だったが、様々な会社が入

りするより、一社が管理したほうが良いと思った」と完山氏。

自治体の入札に参加 委託業者になり急成長

八王子市が2004年10月から資源回収を開始することになり、その入札に参加し、ペットボトルの収集運搬を担う委託業者になったのが大きな転機となった。定期的に収入が入るようになり、また、自治体の仕事をしていることで信頼が得られて仕事が増加。売上は飛躍的に伸びた。

今年度は、昨秋以降の不況の影響で市況が落ち込んでいるが、これまで5年間の年商は毎年、約1億円ずつ増収の右肩上がり推移し、2007年度は4億5,700円、2008年度は5億5,000万円だった。事業の拡大とともに、2000年頃より従業員を1人ずつ増やし、今秋は中間処理施設のオープンに伴い、昨年の32人体制から10人増員し、42人体制とした。

RECYCLE FLOW



搬入した廃棄物を重機で荒選別



手選別コンベアで、紙くず、ペットボトル、廃プラスチック、木くず、繊維くず、混合くず、金属くずに選別。ラインの奥にあるのが磁選機



硬質プラスチック等を圧縮する圧縮機



圧縮された細かいビニールや硬質プラスチック



選別・資源化ラインに投入し、振動ふるいにかける

業務の効率化として 電子マニフェストの導入を提案

新施設「高尾リサイクルセンター」では、地域環境へ配慮し、騒音や粉じん対策として、開閉式屋根を備えた約300坪の建物内で作業を行っている。選別・資源化ラインをはじめ、紙くず・木くず・繊維くず等の破砕機、廃プラスチック・硬質プラスチック等の圧縮機、廃発泡スチロールを溶解しインゴット化する発泡スチロール減容機などを整備。長年のスクラップ業に携わってきたノウハウを生かし、手選別と機械の導入により、廃棄物を高度に選別し、処理・リサイクルする。

「コンパクトな施設だが、きちんとした処理を行っている。排出事業者の方だけでなく、廃棄物のリサイクルに興味がある子どもたちに見に来てもらえるように、クリーンで、一連の処理の流れが見える施設を目指した」と完山氏。

投資額は2億5,000万円。不況で廃棄物の取扱量が減少するなかのスタートとなったが、「施設の必要性は以前から感じていた。自治体や大手排出事業者では、中間処理を行える処理業者が取引要件になってきている。

また、悪い時期にいい施設を作っておけば、景気が回復したときに武器になると信じている」と完山氏。まずは、自社で扱っている廃棄物の処理からは着手し、今後、ハウスメーカーや工場、量販店などへの営業を強化していく考えだ。

また、同社では、2006年から電子マニフェストを導入しているが、「排出事業者、収集運搬業者、中間処理業者の三者の足並みがそろわないと、電子マニフェストの導入はむずかしい。今回、中間処理業者になり二者分の対応ができるので、業務の効率化を図れる電子マニフェストの導入を排出事業者へ勧めていきたい」と語った。

会社概要

株式会社 完山金属

資本金：1,000万円

設立：1965年(昭和40年)4月

所在地：東京都八王子市館町468-2

事業概要：

事業概要：再生資源取扱業、産業廃棄物処理及び収集運搬処理業(積替保管有り)、一般廃棄物収集運搬処理業、機械・設備解体撤去処理、家屋解体業、自動車・建設重機解体処理業、一般貨物運送業、会社・工場内廃棄物管理委託、古物商、古枕木売買業務、計量証明事業、フロン類回収業



完山金属
代表取締役社長
完山一範氏
(さだやま かずのり)

当社では、中間処理施設を開設するに当たり、町と創業協定を結び、道路の清掃を1ヵ月に1回、川の清掃を3ヵ月に1回実施し、また、地域行事には積極的に参加していくことを約束しています。町会の一員として迎えていただきました。産業廃棄物の処理施設へのご理解をいただけるよう、地域とのコミュニケーションに力を入れていきたい。施設の開場式にいらしてくださった地域の方からは、「こういう施設で処理するならば大丈夫だね」とうれしいお声をかけていただきました。

将来的には、廃棄物を原料とした固形燃料RPFの製造機なども導入し、マテリアルリサイクルが難しい廃棄物も埋め立てや焼却に回すのではなく、サーマルリサイクルを行っていきたくと考えています。透明性の高い廃棄物の処理を行い、多摩地域で先導してリサイクルを推進していける業者を目指していきます。